

『人権に関する市民意識調査報告書』について

瑞浪市人権施策推進審議会委員の意見・感想等まとめ

1. あなた自身について（問 1～問 4 / P 9～P10）

2. 人権全般について（問 5～11 / P11～P41）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
新しく加えられた項目⑨「性的指向、ジェンダーアイデンティティを理由とする人権問題」について考えていかなければならない問題であると思う。関心があるが、多いか少ないかは多少差はあるが、どの項目も高いと感じた。	生活する中で、人権の事をどれだけ考えなければいけないかわからないが、生きていく上で生きにくい世の中にならない様にする事だと思う。
すごく細かい事まで調査された事にびっくりしました。	—
・ 三世代世帯が年々減少していることがわかった。 ・ 人権に対する考え方が変化していくことがよくわかる。 ・ 男性と女性の考え方の違いもよくわかる。	—
市としては、高齢化が進み、家庭環境も三世代同居から核家族化へと変化し仕事を持つ中高年層が増えてきている。時代の変化や流れ、地域による違いにあった視点から人権に対し考えなければいけないのだと感じました。	リサーチや相談体制を今まで同様続けていくことが重要だと思います。 個人が情報を収集し、理解を深め、学び、認識を高められると嬉しいです。
「ある程度の制約」を生み出す社会生活の具体性が明確ではないが、何よりも人権を尊重しなければならないという意識が徐々に高まりつつあることがわかる。 権利が優先されることはよいが、権利と義務は表裏一体である認識は持ち続けなければならない。 義務を果たすことは大丈夫か。	
P35、学校での差別待遇は、ほとんど無くなったのに職場での差別待遇がまだかなりあることを知り愕然とした。 P33、70 才以上で学歴、出身校の差別の割合が高くなっているのは、人間はいつまでも、学歴、出身校を気にして差別しているのかなあと思った。	若者世代の「相談しても解決しないと思う」ことは、あきらめに通じ自暴自棄につながることで、このことこそ大切に扱っていく必要があると思う。 相談できる相手も少しずつ減ってきているので。高校を出た後の生活自体をとらえて行く必要性を感じる。
あらぬ噂、悪口、陰口を発する側の気持ちは・・・ 誰かに不満を持った時、仲間に話して共感してもらうことによって、スッキリするし、仲間との繋がりが強くなる。共感みんな欲しい。	

「非常に関心がある」という人権問題が、「子どもの人権」「インターネットを悪用した人権」「働く人の人権」等、近年ニュースで話題となっている問題や、実際に身近に感じることに意識の高さがあることがうかがえた。	人権について、家族以外に相談できない事が多いと思われるので、相談窓口機能が充実するような取り組みをして欲しい。
どんな調査内容だったのかまず調査票に記入してみました。 ちょっと迷うとなかなか先に進めず難しかったです。 自分のまわりで、人権を侵害された話は聞いたことがないですが、気を付けないと。	—

3. 女性の人権について（問 12～問 13/P42～P47）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
やはり「男は仕事、女は家庭」という項目はどの年代にもあり、また、少し増加している事に驚いています。家事・育児・介護分担についても、少しづつ、理解されつつあると感じます。	
「家事や育児、介護など男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」まさにその通りです。	私たちの時代は「男は仕事、女は家庭でした。男は妻を自分の思うようにさせようと、怒鳴ったり、怒ったりする人もいます。子どもの時から教育していくことが大切だと思います。学校で時間を作って小さい時から教えていくといいですね。
年代によって、意識が違うので難しい。自分たちはあたり前としてきたことを現在になって変えるのは時間が必要。男女平等って？＝自分の勉強不足！	—
男女共同参画社会の推進が叫ばれている現在において、「男は仕事、女は家庭」という意識がどの年代も 3 割を超えているという事が女性の社会的地位の向上を阻む大きな要因の一つだと感じました。	—
対等と言う意味ではまだまだですが、時代と共に変わりつつある様に思います。これからの時代を女性の人権が 1 人の人間としての人権と表されるそんな時が来ることが望ましいです。	女性としての弱さ、出産に伴う避けられない現実を社会や職場、家族が理解して進歩する事に期待。（弱さは女性だけのものではないので一概には言えない）
昔から人権をおろそかにされていた女性が事態の好転を願う気持ちが強いのは当然である。したがって、人権が何よりも尊重されなければならな	—

いと考える女性が多いのも頷ける。	
だんだん整備されているが、その伸びは低い、伸びの傾向にある男女平等の意識啓発活動、学校教育や社会教育の充実、就労環境の整備など女性の人権を守るために更に充実、推進させていくことが大切だと思う。	男女共に参加できるような育児講座などの開催など望ましい。
性別による固定的な役割分担意識があることへの問題意識を持つ人が増えている、とあり、女性の人権への意識が広まっていることがわかった。近年の学校教育での、性別差別をなくす取り組みに効果が出てきているのでは、と感じた。	—
性別による固定的な役割分担意識は技術家庭科の授業が男女一緒になった頃から薄れていると思っていたけど、18歳～20歳代も強く感じているようで驚きました。	「男女問わず、仕事と家庭生活の両立が容易になる」のはとてもすばらしいですが、それが、「早く子育てを手放すこと」にならないでほしいと思います。
共に担う仕組みが不十分と思う人が40%を超えている事は多くの女性が悩みつつも日々の生活を守るためにやむを得ずやりこなしていると思われる。	—
問 12、社会の仕組みが十分整理されていないことを問題とする回答が多いことが印象に残りました。	ファミリーサポートの周知、及び利便性の向上（例えば、広域化して利用者と被利用者との面識がないようにし、知合いに家庭内を見られるという不安感をなくすなど）を期待します。（直近の総合教育会議の議事録があればご参照ください）

4. 子どもの人権について（問 14～問 16／P48～P55）

感想・意見	第2次指針（後期）に期待すること・アイデア
いじめが減っていると思っていたが、まだ依然とあると感じた。育児放棄や暴力もどの年代も高いと感じました。	子どもだけでは解決できない事なので、育児放棄においては、親の教育も必要だと感じますが。
子どもも物質的には裕福になっても精神的には裕福にはなっていないんだと思った。	参観日とかに親子一緒に勉強会の様なものを開いて、怒りに任せて叩いてしまったりする前の対処法や子供がいじめにあっている場合、具体的にどうゆう行動をしていくべきか！！のような勉強会を開く。悪い事をしたら悪い事が、いい事をしたら良い事が帰ってくるのを教えていく。
・発達障害の子どもへの学校教育のあり方、又はいじめの問題→犯罪につながる可能性あり。 ・子ども1人1人をよくみて理解してあげること	—

が大事。 ・ いじめは深刻で、なくならない問題。	
子育て世代である 30 代 40 代で「特に問題があると思わない」や「分からない」が少数とはいえ 1. 数%あるのは驚きである。	学校等でのいじめ防止対策や人権教育は当然推進すべきですが、家庭（親）への教育のありかたを考えるべき。
弱い立場の子ども、表面的には分かりづらい人権侵害を受けている事、家庭であれ、学校、社会、与える側の意識の薄さ無知さが事を大きくし、受ける側も声にする勇気を持てる様サポートしていけたらいいのでは。人に無関心な所もよくない。意識改革が必要。	わかりやすい相談窓口。わかりやすい教育の必要性。他世代との交流、豊かな心の形成。
子ども一人一人の個性や特性が大切にされる時代になったにも関わらず、親の中にはその特性を受け入れられなかったり否定したりするケースがある。大人がもっと子育ての勉強をして、賢く子どもたちに接する必要がある。 いまだにしつけと称して、暴力を肯定する大人がいることは嘆かわしいことである。ここでも、権利ばかりを主張するのではなく、義務を果たすこと大人の姿を実現することが大切である。	「子ども」と呼ばれる年代に最も違い 18～20 歳の若者に関心がない割合が高いことが心配である。幼少期から人権教育に力を入れ、人権に対して関心の高い大人を育てる必要があるのではないだろうか。
・ 児童虐待を発見した時「民生委員・児童委員に知らせる」の割合が低いのは、以前 10 年近く民生委員をやった経験のある者としては、淋しいと同時に、もっと地域の子どもの育てている親と関わる必要性を感じた。	—
いじめをする側、される側だけでなく、周囲の子どもたち（人たち）の関わりが重要という委員の方の言葉が響きました。	自分の人権と他の人の人権のバランスを考えることを伝えていく。
「いじめ」や「虐待」の事件が多く報道されているので、意識が高まっていると思う。引き続き、学校で、「いじめ」や人権についての啓発や教育を行ってほしい。	—
人権に関心がある人の割合が多いことがよいと思いました。子どもの人権については、学校の児童生徒の様子をよく見てくださる学校運営協議会の方へのアンケートがあるとよい（校内の様子を見ていることから） 30 歳代（子育て世代）70 歳代（祖父母）の心配からの関心が高い要因かと思えます。関心のある方には、各校の HP にある「いじめ防止基本方針	学校では S O S の出し方について学んでいます。その内容を全ての大人に広げることが大切かと思えます。

の取組」を見るように啓発してほしいと感じた。	
いじめと虐待への関心が強いですが、いじめの防止を「学校での取組み」に期待する割合が高く「家庭でのしつけ」への割合が下がっているのは残念に思います。	乳児～中高生までの子どもと関わる仕事をさせていただく中で、「子どもが自分のペースで育つ権利」が「大人の働く権利」より後回しにされていると感じます。
虐待件数が増えているのは教職員の積極的認知によると有り、心強く思います。 特に小学校の学びの場でいじめ等によりつまずくのはかわいそうです。早く気付いてあげたい。	—
問 15. 学校における取組みとネットの正しい使い方が高い水準で推移していると感じました。	人権及びネットとの付き合い方は、いずれも明確な正解が出しにくく、主体的に考えることが大切と考えます。 情報モラルの研修について、岐阜市などで取り組んでいるデジタルシティズンシップ教育を教職員、児童、生徒へ行うよう期待します。

5. 高齢者の人権について（問 17～問 18／P56～P60）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
全般的にどの項目も多いという事はありませんが、最近ニュースで話題になる詐欺や買い物が困難である事が気になります。	近所でも便利が良いという場所ではない人はどの様に生活してみえるか心配になります。詐欺被害に遭わない様にするには、家族、近所など普段からの声掛けが大切です。
若い頃好き放題生きてきて、年をとり病気になり貯金もないからと生活保護」を受ける人と、自営業で国民年金 6 万円くらいしかもらえなくても細々とやっている人、矛盾を感じる。	—
高齢化が進み、高齢者のみの世帯が増え、特殊詐欺等の犯罪から身を守る施策や交通弱者に対する生活支援策が重要である。	生活面での地域格差の解消の具体策の検討を行っていただきたい。
コロナ禍を経てどんどん高齢化を迎える瑞浪市。少しずつではありますが、整ってきている気がします。人権の中でも一番一歩前へ進んでいってる気がします。 これまでと同様持続することが大切。	もっと高齢世代、一人ぐらし世帯等増えていくだろう。これから病院までの利便性（免許返納も踏まえ）買い物など宅配、移動スーパー、訪問医療等豊かに暮らせる権利をサポートしていければと思います。
だましやすいくということから高齢者を狙っての悪徳商法や詐欺が多いことは、高齢者の人権をないがしろにしている最たるものである。	高齢者の割合が高くなり、実際に、高齢の夫婦だけで、もしくは高齢者一人で住んでいる家庭が多くなった。遠くに住んでいる若い世代に期待するより、地域の支え合いをより強固なものにしていくことが大切である。

・高齢者が自立して生活できる環境の整備は随分充実してきているが、まだ女性の割合が高いということは、まだまだ十分ではないと思われる。 ・「高齢者が安心して外出できる、建物や交通機関の整備」が近年特に必要になってきている。今後更に高齢者も増えてくるので、キメの細かい高齢者福祉の充実を考えていかなければならない。	—
心身の機能低下から、今までできていたことが、できなくなると、どんな気持ちになるか・・・	周囲の声のかけ方や対応が高齢者の精神の安定や生活の安定につながると思う。
この地域で暮らしていけるよう体操教室や友達との会話したりして、社会性を失わないようにして、詐欺も心配なので報道を共有しながら身を引き締めていきたいです。	—
問 17.詐欺や悪徳商法の被害が多いと感じます。 問 18.サービスの充実の必要性が高いと感じます。	成年後見制度（市長申立て）の積極的活用を期待します。 在宅で成年後見制度を利用する方と社会福祉協議会とが連携して支援にあたれるよう期待します（現状岐阜県ではできていない）

6. 障がい者の人権について（問 19～問 21／P61～P66）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
—	障がいを持つ人が暮らしやすいと感じる町であればいいと思います。
知らないことばかりです。	障がい者が独立できるような社会になるといい。
障がい者の自立に向けての基盤整備の遅れを感じている人が多い。	—
偏見をなくす 障がいに対する知識を深めることが大切なのかあと思います。	今まで同様に知る、交流する場を設け参加し支援することが進められることを望む。
障がいのある方たちに対する正しい認識や判断力は大人になってからではなく、幼少期から培っておくことが大切である。とりわけ、園や学校の職員が子どもたちに対して障がいについての正しい知識や認識を持たせることが必要である。それは、保護者にもあてはまることは言うまでもない。	家庭の教育力にも期待したい。園や学校は社会（集団）の中でどのように障がいがある人たちを受け入れるのかを中心に、家庭では人として障がいのある方たちにとってどう接するか子どもたちに指導してほしい。
「障がい者の就労機会を確保する」現在の瑞浪市の就労施設の種類の数が少なく、その人が働きたいと思える場所が少ないという話を聞く。もっと様々	—

な企業に働きかけ開拓していく必要性を感じる。	
「障害者差別解消法」について、6割の人が知らないと答えた事に驚いた。障がい者の人権についてあまり浸透していないことがわかり、啓発活動が必要であると感じた。	—
—	成年後見制度（市長申立て）の積極的活用を期待します。 在宅で成年後見制度を利用する方と社会福祉協議会とが連携して支援にあたれるよう期待します（現状岐阜県ではできていない）

7. 同和問題（部落差別）について（問 22～問 26／P67～P75）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
知らないと答えている人が多少なりいる事が問題であると感じる。	どの様にとりあげるかがまた問題で、学校の授業で教わったとあるのがまず自然であるが大人（どの年代でも）知っておくことも必要であると思う。
まったく知りませんでした。	—
年代関係なく意識が薄れてきていることは納得。	—
同和地区の情報が不足しているため、社会的理解度が低いと思われます。	情報不足を解消するための啓発活動の充実を図る。
現状あまりというか、ほとんど関わった事も目にしたこと事がないので、よくわからないのが実際のところですよ。	偏見を持たない人間形成を。 教育を学校、職場、社会、家庭で育てていけるといいと思う。 窓口の認知度を高められるとよい。
同和問題について、学校で教わったという人もいれば、知らないという人も多い。40 歳以下の若い世代に知らない人が多いことで、学校で同和問題を扱う機会が少なくなっているのではないかと危惧される。学校で教わったという人は比較的高齢の方が多いのではないかと。	日本の長い歴史の中において、政策の一つとして人為的にできあがった部落差別を確実に教えることが必要である。生活の中のいじめや誹謗中傷等だけが社会問題ではないことを、特に若い世代が周知する必要があるのではないかと。
同和問題について、若い世代の認識が薄いことに驚いた。同時に差別意識は薄まっているともいえるが、社会における問題意識はなくしてはいけないと感じた。	
同和問題については、学校教育で扱うことが少なくなってきました。「それでよいのか？」という思いもありながら、「寝た子を起こすな」という風潮が否めません。ただし教職員は知識として知	—

るべき。	
瑞浪にいと、同和問題は歴史の教科書に載っていたような過去のことを感じられるので「わからない」が多いのも納得です。	私自身、不勉強でこの用紙に記入するために「同和問題の現在」を少し調べたらまだまだ根深いものがあるって驚きました。性別役割分担など他の問題も同じところがあると思いますが、「一度刷り込まれた思い込みはなかなか消えない」と感じます。何かにつけて「これはただの思い込みでは？」と自分の思考チェックするような教育が必要だと思います。

8. 外国人の人権について（問 27／P76～P78）

感想・意見	第2次指針（後期）に期待すること・アイデア
やはり言葉や日常生活の違いが問題と考えている人が多いと感じます。	—
外国人と接する事がないので良く解りません。	自分達が海外へ行っても、上手にコミュニケーションがとれたらもっと楽しいでしょうね。
何人であっても同じ人間。 コミュニケーション能力を高めていくことが重要。	偏見を持たない人間形成を。 教育を学校、職場、社会、家庭で育てていけるといいと思う。 窓口の認知度を高められるとよい。
国民性をどのように理解するかによって、外国人に対するイメージが変わってくる。逆に外国人は自分たちの国民性が日本人にどのように映っているかを考える必要がある。 外国人犯罪やマナー違反がなくなる限り、外国人に対するマイナスイメージは払拭できない。 （そういう外国人ばかりではないとはわかっているが。）	—
外国人と接する機会が増え、外国人がより身近になってきている現れではないか。しかし、女性より男性で関心がない割合が高いのは理解しにくい。	—
外国人の犯罪をＴＶで見ると「ああ、やっぱり」と思う。外国人を遠ざけたい。怖いと思っている。その理由について、自分自身に聴いてみる。	外国人への日常生活に関する分かりやすい情報提供は足りているのか。
—	外国人の居住が多い他市の取り組みを参考に、外国人の方の人権啓発や、住みやすい街づくりについて考えていけるとよい。

9. 感染症患者などの人権について（問 28～問 30／P79～P84）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
理解や認識が十分でないことが多いと感じた。	コロナが流行したときも感染した人をばい菌扱いにされたと聞いたことがあります。時間が経って病気が理解されていくことで、認識されるという時間差があったので難しい事ではあると感じます。 医療関係者には感謝です。
最初にコロナにかかった人の扱いがあまりにもかわいそうだったと思います。	人としてどうやって接していくのか考えていかないとだめですね。
コロナ禍以降感染者に対する関心は高まったが、半数を超える人が理解や認識が充分でないと感じている事が、感染症患者への配慮不足に繋がっているのではないかな。	—
正しい知識を持つことが大切。	偏見を持たない人間形成を。 教育を学校、職場、社会、家庭で育てていけるといいと思う。 窓口の認知度を高められるとよい。
ハンセン病患者に対する差別も未だに存在することを考えると、差別解消には随分時間がかかる。やはり、正しい知識をしっかりとつこと、科学的根拠に基づいて判断することが大切である。	—
全体でも性別、年代別でも問題と思うことは、医療機関やその従事者、家族がうわさ、誹謗中傷を受けることがないよう、対応の最前に立つこの方たちに十分な理解と感謝の気持ちを持っていかなければならない。	—
社会で感染症における正しい知識が持てれば、差別意識は生まれないと思うので、そういった啓発活動は大切だと感じた。	感染症についての正しい知識を、広報等に掲載してほしい。目にすることで、意識が持てるのではないかなと思う。
正しい理解はいつの時代も大切だと感じました。20 年ほど前はエイズ（HIV 感染者）の差別も大きな問題でしたが、今は扱っていません。やはりもっともっと根本的が「差別意識」への問題視が大切なのかなと思っています。	—
コロナウイルスの世界への感染拡大はびっくりするばかりでした。瑞浪で最初の頃感染者された方は本当に気の毒でした。これからはありうるので正しい知識をもち、誤ったうわさ話を拡散させないようにします。	—

10. インターネットによる人権侵害について（問 31／P32～P85～P97）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
今では携帯電話はほとんどの人が持っている時代であるため、インターネットもつながれば犯罪や嫌な事を目にする事が多くなる。	ニュースでは子どもがゲームに夢中になり課金して親に多額な請求が・・・と聞いたりする。楽しいからつついではすまされない事で人の悪口や誹謗中傷もダメ。啓発活動頑張りたい。
どこの誰か解らない事をいい事に、他人への誹謗中傷する人達が後をたたないのは心を痛める。	やったらやり返される。 型が変わって、自分に返ってくるとは考えないのですね。
問題があると思う人がほとんど。 監視や取り締まりを強化する割合が高い。 自分で情報を精査することはなかなか難しい。	—
匿名性を利用した誹謗中傷や不確定な事実の拡散など、大きな社会問題となっているが、法整備が追いついてない現状で、規制強化や悪質な利用者の特定が問題であると考える人が増加している事は健全な意識の表れだと考えられる。	—
インターネットに関しては日々進化し若者ほどついていけないのが現実。これからの人は善悪の見極めが必要。年配な方は勉強し知識も必要ですが、無理ならとどまる力を身につけること。サポートしていけると良いと思う。	学校教育等で今まで以上に学ぶが必要。サポート窓口もわかりやすいものが必要。PC（インターネット等）用語使いが難しすぎる。
ネットの人権侵害の問題は、自分の身分が相手にわからないということが本質にある。わからなければやってもよいという人間の弱さが表出した結果である。その弱さが幼いうちから芽生えやすいのがネットの世界であるように思う。	やはり子どもに対する情報モラル教育に力を入れなければならないと思う。小中学生はもちろん、情報モラル教育の低年齢化が進められることを願う。
「18、19、20 歳代での関心がない」の割合が高い。一番使う年代で関心がないというのはインターネットで人権侵害をしているという意識の低下ではないかと考えられる。（P21 より）	全年代で問題視する割合が高い。 インターネットでは、相手に知られず容易に誹謗中傷ができることが、大きな人権侵害につながっているという意識の低下に気づき、なくすことを意識していくことが必要だと思う。
人の悪口を 心の中で思う→言葉で出す→友人が聞く→本人に届く どの部分がダメなのか・・・	—
社会的に、非常に関心が高い問題であると思う。特に若い世代において、インターネットの正しい利用の仕方等について、しっかりと教育していくことが必要だと感じた。	子どもに対しては、学校での教育や大人には地域での学習会などを行い、啓発活動を広げていってほしい。

ネットの誹謗中傷で命をおとす人が出る世の中になってしまいました。 なんであんなに誹謗中傷するのかわからないです。	—
—	ネットとの付き合い方は、明確な正解が出しにくく、主体的に考えることが大切と考えます。 情報モラルの研修について、岐阜市などで取り組んでいるデジタルシティズンシップ教育を教職員、児童、生徒へ行うよう期待します。

11. 性的傾向（同性愛、両性愛など）、ジェンダーアイデンティティ（「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態）を理由とする人権問題について（問 33～問 36／P91～P97）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
「パートナーシップ制度など同性カップルを公認する制度をつくる」の割合が高い傾向にあることに驚いた。	ニュースなどで病院など受診した時、家族として扱ってもらえず、がっかりしたと同性カップルが話していた事があり、また同居する時もいろいろ不動産屋さんに聞かれたと・・・。 岐阜県パートナーシップ制度いいと思った。
最近ジェンダーという事を知ったくらいです。	偏見の目にさらされる事なく、生きやすい世の中になるといいですね。
報告書にあるとおり、社会的理解度が低いと自分も思います。	—
私自身はまったく偏見がないので、一人の人間として接するのみ。	—
古い人間にはなかなか理解できない問題であるように思う。時代の趨勢と共に理解する人が増えていくのではないだろうか。 ただ、理解が進むと、性の利用した犯罪等も生まれてくるように思う。そういうことも人権侵害と言えるのではないだろうか。 小中学校のクラス編成にも徐々に配慮が必要になってくるかもしれない。 少子化が問題となっている現代、同性カップルを公認する動きが盛んになれば、少子化にますます拍車がかかる。矛盾した世の流れであるというのが正直なところである。	—
この問題について、男性で「関心がない」と答えた人が多いことに驚いた。以前に比べると、性的	

思考等の人権問題解決に向けた取り組みは進んでいると思うが、更なる啓発活動が必要だと感じた。	
---	--

12. 刑を終えて出所した人の人権について（問 37～問 39／P98～P103）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
住宅を借りることができないことや就職、仕事のこと、日常生活に支障がでくる解答になりさみしいです。	今までと同じ様につきあっていると解答されている事はとても良い事だと思う。更生保護活動されている方には頭が下がる思いです。
TV とかでやっているのに対しては、もっと理解を示してあげればいいのになんて思うのになに実際身近にいる人には少し白い目で見えてしまいます。	—
瑞浪市では、出所した人が身近に少ないため、関心がないのも無理はないように思います。しかし、関心度が増加傾向にあることはいいことだと思います。	—
罪を犯していない人と全く同じように接することができるかどうかは難しい問題である。営業停止の過去がある店に入ることがためられるのと同じである。やはり、刑を終えた後の姿に焦点を当てて周囲の者が見極める必要がある。	—
アンケート結果を見て、町の人々の率直な思いがよく出ていたと感じた。刑を終えた人について理解しよう、差別をなくそうという意識は多くの人々が持っていると感じられた。	—

13. 犯罪被害者とその家族の人権について（問 40～問 41／P104～P108）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
（テレビドラマなどで誇張して表現されているので）犯罪被害者なのにプライバシーが侵害されてしまうことがある。	報道や取材に配慮が必要。
被害者だったら、自分だったら住めないかなあと思いました。	—
犯罪者より犯罪被害者の人権問題の方が深刻だと思います。 ネット社会の問題点。	—
犯罪被害者に対する過度な取材、報道の規制を考	—

えるべきではないかと思います。	
身内が罪を犯せば、評判や周囲の目は当然気になるもの。しかし、家族が不当な扱いを受けることがあってはならないと思う。家族は相当ショックを受けて暮らしていることを温かく受け止める周りでなければならない。	男性でも、仕事も家事も育児も介護も出来る素敵な人を育てていかなくてはと思う。。

14. 災害時の人権について（問 42～問 43／P109～P112）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
—	誰もが災害に遭った時、遭難生活をする事になる。プライバシーが守られない事が心配されるが普段から近所付き合いをよくしたいです。
直面する事だと思うが、まだ他人事である。	—
毎年起こる大規模災害は人ごとではないと実感される結果だと思います。	—
避難所生活の長期化に伴う、精神的な負担が問題であると考えます。 「特に問題があるとは思わない」と考える人が 4 % 近くいる事が問題である。	—
災害時はみな同じ立場。 現状あまり現実的な感じが無いが、災害に備えてどうするのか今考えておく必要がある。	個人としては、思いやりを持ち助け合う。行政としては、仮設住宅の候補地の確保に備えることが重要。
被災して苦しみや悲しみを味わっている方たちの傷口に、塩を塗るような現実があるということが悲しい限りである。	—
年々大規模災害が起こる事が増えており、もっと身近な問題として考えられるよう、啓発活動が必要であると感じた。	防災訓練などの時に合わせて、災害時の人権問題についても少し触れてもらえると良い。

15. 人権教育・人権啓発の方法について（問 44～問 48／P113～P122）

感想・意見	第 2 次指針（後期）に期待すること・アイデア
「知っているものはない」と解答されていて、少しガッカリしました。	—
役員をするまで知らなかったです。	—
市が行っている取り組みについて知っているものはとの問いに対して、人権啓発講演会の開催の割合が少なく意外でした。	学生は学校教育の中で学ぶが大人の方がもっと思いうる心など学んだ方がいいと思います。本当に自分勝手は大人が多い。
全戸に配布される「広報みずなみ」が啓発には有効である。	—

目に見えるほどの結果がそこにあるわけではないが、一歩ずつの積み重ねが大切なのだと痛感します。字面だけでなく心が豊かに育って行きたいと願います。	瑞浪に必要な豊かさをはぐくめたら、みんなが幸せになれる気がする。 田舎ならではの学校教育への協力。 映画、講演など笑って学べるものもたくさん欲しい。交流できるイベントなど。
個人的には、広報の啓発記事よりも「ちょっといい話」の冊子の方が内容も形式も魅力的で、啓発の効果に格段の差があると思う。	「ちょっといい話」の冊子は素晴らしいと思う。しかし、活字離れの現在、目に通す人がどれほどいるか心配である。冊子にまとめるのは継続しつつ、広報の記事の中に冊子の中の文章を数編紹介してはどうだろうか。広報の記事の中に趣の違う素敵な文書がさりげなく入っていれば、市民は目を通すのではないだろうか。
・ 広報みずなみの知名度の高さ ・ 「人権」という言葉・文字は、日常から遠い印象があるのでは。	・ 具体例がわかりやすい ・ 正しいけどつまらないものには、興味を示さないらしい。 ・ 講演会や映画
瑞浪市における「ちょっといい話」の取り組みは、継続されているとても良い活動だと思う。瑞浪市で育っている人は、この取り組みを必ず知っていると思う。身近に人権について考えるきっかけとなっているのではないかな。	—
広報みずなみの啓発記事を知っている人が思ったより多かった。「ちょっといい話」を人権と結びつけている人はどのくらいいるのかな？と思います。	学校を卒業すると、人権について勉強する機会もない人がほとんどだと思うので、市の啓発活動は大事だと改めて感じました。人権啓発講演会がもっと知られるといいなと思いますが、「人権にあまり関心がなくても困らない人が多い」ということだと思えば、瑞浪は全体に平和な証拠とも言えます。
問 46. 自分の大切さとともに、他人も大切だと認めることが大事という結果は、問 5 で一人一人の人権は何よりも大切という回答が増えていることと矛盾しているように感じました。 社会＝人の集まりであり、社会生活における制約とは、他人への人権の配慮だからです。	学校教育について、岐阜市、大垣市で進められている法教育（≡社会の授業における主権者教育）を瑞浪市でも積極的に取り入れることを期待します。 地域においては、民生委員・児童養護委員など各家庭に関わる方々と他の専門機関との連携を強化することを期待します。

16. その他（ご自由にお書きください）

感想・意見	第2次指針（後期）に期待すること・アイデア
沢山の質問にも関わらず、解答してくださった方	

に感謝します。 いろいろな意見（項目にはないもの）もあると思うので、知りたいと思います。	—
—	第2次指針（後期）を再犯防止推進法第8条第1項に基づく地方再犯防止計画として、「瑞浪市再犯防止計画」として位置づけるとあり、見落としなき様をお願いします。
どんな問題に対しても、心の豊かさをどのようにしてはぐくむのか、自由とわがまま、身勝手を履き違えないよう学び、相手を思いやり優しい気持ちを育てたい。	今までの啓発、教育でどのような成果があり何が足りないのかを踏まえ、瑞浪に合う施策ができていけたら素晴らしいと思います。 意識調査から感じる事、私の思いを書きましたが、現実的かつ未来を夢みてもっともっと考えわかりやすい言葉を探していこうと思います。
・私の立場から言うと、いまだに叩くことがしつけになると勘違いしている保護者がいたり、暴力や暴言で自分の感情を爆発させる短絡的な大人がいたりする。 子どもが嘘をついたり、反抗したりして思い通りにならないと思えることを、大人としてどうとらえるかが大切。それによって親としての力量がわかるのではないかと思う。	—
相手の立場に立って考える・発言することをブレずに大切にしていきたい。	—
—	様々な「人権問題」があるので大変だが、ポスター掲示や広報への掲載など、市民が目に触れる形で帰属して啓発を行うのが一番現実的な方法かと思う。
日頃から人権をおびやかす人は、やはり自己肯定感の低さが影響しているのではないかと思います。人から褒められた経験や感謝された経験が多いか少ないかにもよります。それは、子どもも大人も同じかと思います。このことから、学校現場として、お互いを丸ごと受け入れ、誰もが自己有用感、自己肯定感をさらに高める教育を目指していきたいと思います。	—
人権全般についての質問ですが、回答者は人権問題の具体的なイメージがないところで関心の有無を答えていると思います。問5・6が問12～問43の後だったら関心度が違うものもあったかも、と感じました。	—

